

みやまかまあと 宮山窯跡

～県内最古クラスの須恵器窯～

宮山窯跡は、熊岡八幡神社(豊中町比地大)が鎮座する宮山の裾に所在する「須恵器」を焼いた窯跡です。昭和56年に行われた散水栓工事に伴う事前調査で出土した須恵器は大変古いものであったため、全国的に有名となりました。宮山窯跡は、平成10年には豊中町指定史跡となり、平成18年の合併に伴い市指定史跡となっています。

須恵器とは5世紀前半ごろ(古墳時代)に朝鮮半島から伝えられた、まったく新しい土器です。これまでの縄文・弥生土器と作り方に関して決定的に異なる点は、「窯」を構築して高温で焼くため、硬質で保水性に長けた焼き物を作ることが可能になった点です。また、土器の表面にはロクロの回転を利用した模様を持つものもあります。宮山窯跡出土の須恵器を見てみますと、5世紀中ごろの特徴がありますので、日本に伝わってすぐに三豊市にも伝わったことがわかります。現在、県内で確認されている5世紀の古い須恵器窯は高松市の1カ所と、この宮山窯跡しかありませんので、大変貴重な遺跡といえます。

昨年度、発掘調査を行った結果、須恵器の失敗品を捨てていた「灰原」と窯の端にあたる「煙出部」を確認しました。灰原は字のとおり真っ黒な灰が約30cm堆積しており、その中からは600点を越す須恵器の破片が出土しました。煙出部も字のとおり窯で焼く際に煙が出て行く部分で、窯の一番端にあたる部分です。

三豊市には宮山窯跡の他にも窯跡が数十カ所もあり、古墳時代以降、窯業が大変栄え、古代になると、当時の都である藤原宮に瓦を供給した宗吉瓦窯(三野町)が築かれるまでに発展しますが、その出発点となるのがこの宮山窯跡だったといえます。

<生涯学習課>



▲須恵器の失敗品を捨てていた灰原



▲窯の煙が出ていく煙出部

今月の市民力

三豊市商工会女性部のメンバーが、まちの活性化に少しでも貢献できたらと、まちあるきを続けています。今年で4年目を迎えたまちあるきも、最初は認知度が低く、定員に達しないこともあったそうです。それでも続けてきたのは「将来の子どもたちのためにも、活気ある三豊にシなくてはいけない」という思いがあったからです。「三豊市を知り、来てもらうことが、まちの活性化につながる」と活動を続ける女性部会員。すぐに結果が出るものではないだけに、長く続けることが大事だと、塩田部長は言います。「まちが活発であるように」と頑張る女性部の活動は、確実に三豊の魅力発信やまちの活性化につながっています。

